

令和 7 年度福岡県立図書館協議会 議事概要

1 開催日時

令和 7 年 10 月 23 日(木)10 時 00 分～12 時 00 分

2 開催場所

福岡県立図書館

3 出席者

(1)協議会委員 7 名

(原 正和／峰 恵／山田 美穂／矢野 愛／片山 礼二郎／池内 淳／矢崎 美香)

(2)本庁主管課 1 名

(3)事務局 12 名

4 議題

「令和 6 年度運営状況に関する評価結果について」

5 議事内容

[会長選出]

立候補なく、事務局提案どおり、池内委員が会長に選出された。

[全体説明、目標1『生涯にわたる学びの支援と情報発信』について]

(事務局から説明)

【委員】

電子書籍の団体利用が34団体となっている。この中に学校が含まれているが、どのように募集したか。

(事務局)

令和6年度に開始したが、その前の2か年で利活用調査を県立学校へ行い、その結果を受け、再利用を呼びかけた。また小中学校へはHP等で受け付けるほか、校長会などでPRした。

【委員】

どこの自治体も電子書籍の利用は少ない。唯一利用が増える方策が、児童生徒にIDを配ることだ。県立図書館の電子書籍は、県全体がサービス対象である。どこの自治体でも使えるので、広めていただきたい。この段階では利用数は気にしなくてよい。まずは資料を充実させる

ことが大事だ。

【委員】

KPIが8つあるが、それぞれどの取組に対応するか。

(事務局)

購入予算と電子書籍は1、パスファインダーとレファレンスは2、展示や講演会は3、ホームページやSNSは4に対応する。

【委員】

講演会等の満足度アンケートのサンプル数が気になる。インスタグラム等のフォロワー数も大事ではないか。ホームページよりもSNSの方がリーチする傾向もある。KPIとしてふさわしいのではないか。

(事務局)

アンケートについては、全員から回答いただいているわけではないが、できるだけ多くの回答をいただけるよう、工夫を図っている。

【委員】

購入予算について、要覧の18ページを見ると、所蔵数の合計が減っている。専門書、参考図書の割合が増えているとのことだが、所蔵数減少の理由は何か。また、レファレンス協同データベースの利用数がかなり増えているが、理由は何か。

(事務局)

所蔵減は書庫の狭隘化に対応するためだ。収容率が95%近くなっており、除籍を進めている。購入もしているが、合計では減っているということだ。専門書、参考書を中心に選書する方針は変わっていない。レファレンス協同データベースについては、全体として利用数が増えているためと考えている。というのも、都道府県及び政令市の図書館、計80館程度の中で、当館は25番目くらいの利用数となっているが、その順位は昨年度から変わっていないからだ。

【委員】

特集展示の回数が指標に上がっている。しかし、展示は回数よりも内容が大事だと思う。指標としては満足度の方がよいのではないか。

(事務局)

展示企画委員会を設けており、年4回エントランスホールで企画展示を行い、その他特集展

示も行っている。表紙を面出しすることで、展示した資料がよく借りられている。回数もまた重要な要素と考える。

【委員】

どのような展示をしたのか、わかるようにしてもらえるとよい。偏りがあるのもよくないので。

【委員】

展示については、利用者からのリアクションを把握しづらい。シールを貼るなどのやり方は考えられるが。月に複数回やっているのはよい。

【委員】

パスファインダーの作成・更新件数について。図書館で合計どれくらい準備されていて、そのうちどれくらいが更新されたのか。

(事務局)

パスファインダーは、A4 サイズの両面で HP にも掲載しており、合計100点ある。一般向け、子供向け、郷土向け、青少年向けの4種に分けられる。版の変更、URL の変更などで更新を順次行うほか、新たなテーマが見つかれば、新規作成もしている。

【委員】

ほとんどの図書館が100点もない。多いほうだ。

【委員】

パスファインダー全体のうち、どれくらいを更新したか、というのが目標設定としてわかりやすい。

[目標2『子供の学びと読書へのいざない』について]

(事務局から説明)

【委員】

目標値の設定について。全体として、そもそもどう設定しているのか。

(事務局)

過去3年実績の平均値としているものが多い。

【委員】

平均値を超えるようにしていくと、10年経てばかなりの成長となる。来館者数は全国的に増える傾向だが、貸出数は減少傾向にある。余暇の時間の過ごし方が変化し、メディアも多様化して、本が読まれなくなっている。目標値をプラスに設定すること自体が難しい。実質的には資料購買力が下がっているところもある。県民の了解を得ながら、低めに設定してよいものもあるう。

【委員】

ボランティア研修の参加者数は延べ人数か。

(事務局)

実人数だ。

【委員】

おはなし会は、ボランティアが行っているのか。

(事務局)

職員が基本的に行うが、第4土曜のおはなし会はボランティアが行っている。

【委員】

研修会はおはなし会についてのものか。

(事務局)

そうだ。

【委員】

ボランティアの高齢化が課題だ。研修会を開いても、参加を得て、実践につなげるのが難しい状況がある。

【委員】

目標値を高くすると、現実に合わないこともある。音訳ボランティアでも、製作目標数を現実に合わせながら上げていく方が効果的だった。子ども図書館では、飾りや掲示が素晴らしい。数字もよいが、それ以外でも努力していることがわかるとよい。

【委員】

市や町の図書館でも同じような研修事業をされている。県と市町の役割を整理してはどうか。学校図書館協議会でも研修を行うが、それとタイアップしてもよい。市や町の支援が県の役割だろう。直接のボランティア研修は、なくしてもよいのではないか。県が出向いて、市や町で研修をしてもよいのではないか。

【委員】

取組の中には、なかなか数字に表れないものがある。利用者から好評いただいても、数字に出すに評価されない場合もままある。実際に、ボランティア数はどれくらい必要か試算して、その上でどのくらい研修を実施すべきか検討してはどうか。

【委員】

予算獲得などでは、客観的な数字が必要となる。様々な努力を代表するような数値を重視するようできるとよい。

[目標3『ふくおかの文化を育む』について]

(事務局から説明)

【委員】

レファレンス事例の登録が20件あるが、レファレンスを受けたものの、登録に至らないものもあるのか。

(事務局)

ある。質問に個人情報が含まれるもの、ほかで参考になりにくいものは登録公開しない。他県でも役に立ちそうなものなどを厳選して登録している。

【委員】

県が持っている写真データを登録公開するなどの取組はあるか。

(事務局)

していない。デジタルライブラリに上げているのは、所蔵資料のうち、著作権保護期間満了のものや許諾が得られたものである。

【委員】

広報紙をつくる過程で撮影したもののうち、著作権を県が持っている写真についてアーカイブ公開してもらえると、一般の利用が得られてよいのではないか。

【委員】

出版社のページへのアクセス件数が伸びている。その要因は何か。

(事務局)

出版社に声掛けして、自己紹介記事を書いてもらっている。SNS にも掲載しているが、こちらの影響が大きそうだ。また、リンクをたどりやすくするよう改善した。

【委員】

その工夫は、ほかの取組でも流用できるのではないか。

【委員】

デジタルライブラリへのアクセス数が伸びている。クイズ形式のものなどもあり、面白い。学校などでも使ってもらえるようにするとよい。その工夫ができれば、さらにアクセスが伸びるのではないか。

目標4『バリアフリーの実現』について

(事務局から説明)

【委員】

春日市でのバリアフリー図書読書体験会は、福岡点字図書館との関係で行ったものか。

(事務局)

クローバープラザで行われた全国視覚障害者情報提供施設大会(福岡大会)に、読書バリアフリー特別展示として九州国立博物館などとともに参加したものだ。

【委員】

バリアフリー向けコンテンツの利用頻度はどうか。

(事務局)

データ上では、どういう人が利用しているかわからない状況だ。読み上げ対応コンテンツについては、ニーズがあるという認識である。一方、外国語コンテンツの利用は伸び悩んでいる。日本語のものの方が利用されている印象だ。

【委員】

活字の読書に困難がある人であれば、録音図書デイジーが利用できる。しかし、それが十分周知されていない。デイジーの貸出ができるのだから、利用をもっとしていただきたい。周知について、もう少し工夫していただけたうれしい。

【委員】

来館者でも、図書館の事業を知っている人は少ない。SNSを活用しているが、媒体によって特性、利用層が違う。読書に困難がある人の情報チャンネルは何か。口コミが最も強いのではないか。その辺りに精通した人にアドバイスをもらうとよいのではないか。チャンネルを増やすことも大事だ。いわゆるオールドメディアもお金はかかるが、活用してもよい。

【委員】

職員から声掛けをするなど、たずねやすい状況をつくってほしい。図書館業務はサービス業でもあると思うので職員の方はもっと笑顔の対応が望ましい。

【委員】

ホスピタリティが高いのはよいが、利用者によっては依存される場合もある。

【委員】

職員が対応に苦慮する利用者もいる。

【委員】

デジタルライブラリは宝の山だが、インターフェースがもう少し使いやすいとよい。これから課題だ。オーディオブックはすごくよい。俳優、声優、読み上げソフト、誰が読み上げるかで大いに違う。読み上げソフトもだんだん質が上がるだろうが。

目標5『図書館サービスの推進拠点』について

(事務局から説明)

【委員】

研修参加者の満足度について。研修は年間どれくらい開催されているか。分野によってどのように分かれているか。

(事務局)

担当分野ごとに分かれて研修を実施している。部署により、回数はまちまちだ。実施内容も部署により異なる。

【委員】

県内の図書館職員で、どれくらいが参加できているのか。なかなか参加できないという声も聞く。その辺りの実態調査はあるか。

【委員】

数多くの研修を開催してもらっている。一方で、職員の人数が限られており、開館しながら出張させるのが難しい状況もある。休館日、月曜開催が多いが、逆にそのために参加が難しい面もある。

【委員】

県立図書館職員自身が研修をしたり、勉強したりする機会があるよう、取り計らってほしい。県の職員の研鑽が、シャワー効果で市町村全体にとってよいことになる。館長向け研修でも、大学生向けの内容を伝えても、役立つと思ってもらえることが多い。

【委員】

横断検索数について。これは指標として妥当なのか。地区を選んで検索をするのは一般の方も行っている。

(事務局)

指定館受取サービスの利用者は直接、県立図書館の蔵書検索から予約をするため、横断検索を使わない。県立図書館の蔵書検索数と併せて考えてもよいかもしれない。研究させていただきたい。

[その他]

【委員】

インスタグラムについて。現在フォロワー数が520程度では少ない。周知はどのようにしているか。ここに注力するとよいのではないか。

(事務局)

様々な機会を通じて周知を図りたい。研修会、イベント、学校連携など、様々な機会、パイプを活用して幅広く周知したい。

【委員】

厳しい面もあるが、コツコツやってほしい。インターネットは頑強なメディアだ。電話が機能しなくても、SNS だと連絡が付く。伸びしろがあるとも言える。図書館がバズるチャンスは本の破れ被害など、いくつかあるが、基本的には地道にやるのが大事だ。

【委員】

カウンターにコミュニケーションボードはあるか。すぐに出せる方がよいか。

(事務局)

常設している。すぐに出せるよう、徹底したい。

【委員】

デスクマットに貼るというのもよい。先進的にやっていただきたい。

【委員】

図書館を新しくする、美術館などと一体となって文化施設を建ててはどうか。文化エリア化を念頭に、県知事に方向性を出してもらうとよい時期ではないか。社会教育課から提案してもらいたい。

【委員】

東京の上野がそのようなところだ。クイーンズランドなども。文化施設は相乗効果で、利用者も増える。